

久留米市美術館 平成30(2018)年度展覧会計画

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
2F	<p>求道の画家 岸田劉生と椿貞雄 4/7土～6/17日</p> <p>大正期の美術団体、草土社で深い交流のあった二人の画家、岸田劉生(1891-1929)と椿貞雄(1896-1957)の二人展。宮城県美術館との共同企画。</p> <p>劉生は、長女の麗子をモデルに描いた「麗子像」で有名。草土社時代の彼の作風は、若い世代に絶大な影響力をもち、「草土社風」と呼ばれた。椿はその影響から出発した画家の一人。九州の画家にも、高島野十郎をはじめ、劉生の影響を受けた者も多い。また、椿は、晩年九州をたびたび訪れ、《桜島》や《大浦天主堂》などを残した。</p>			<p>名画が奏でる8つのフーガ 青木・セザンヌ・ルノワール ブリヂストン美術館コレクション展 7/14土～9/9日</p> <p>ブリヂストン美術館企画によるテーマ展。石橋財団コレクションを代表する8人の8点の作品を核に構成。画家と作品についての理解を深めるためのさまざまなアプローチを試みる。 ★石橋財団特別助成による</p> <p>セザンヌ《サント・ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》、ルノワール《すわるジョルジュ・ジャルパンティエ嬢》をはじめ、青木、モネ、マティスら、ブリヂストン美術館の代表作が多数展示される。</p>			<p>長谷川利行展 9/22土～11/4日</p> <p>放浪と貧窮の中、奔放な筆致と豊かな色彩によって哀愁漂う都市風景や人物画を描いた画家長谷川利行(1891-1940)の画業の全容を紹介。福島、府中、碧南、足利を巡回。</p> <p>長谷川利行は、その破天荒な生き方と激しい表現によって、明治の天才画家青木繁に比肩しうる画家。また坂本繁二郎や古賀春江らが属した二科会でデビューした画家でもある。</p>			<p>ウィリアム・モリスと英国の壁紙展(仮称) 11/17土～12/27木</p> <p>イギリスの工芸家、近代デザインの先駆者、ウィリアム・モリス(1834-1896)の壁紙を中心に、英国壁紙デザインの変遷を紹介。高崎ほか巡回。</p> <p>青木繁は、バーン＝ジョーンズやロセツティらイギリス・ヴィクトリア朝時代の画家たちから影響を受けたと言われるが、モリスも同時代の人。</p>			<p>コレクション展 1/19土～3/24日(予定)</p> <p>久留米市美術館コレクションおよび石橋財団や個人寄託の作品を、いろいろな切り口で紹介する予定。</p>		
	1F	 <p>劉生《童女図(麗子立像)》</p>  <p>椿《菊子坐像》</p>			<p>ブラティスラヴァ世界絵本原画展 7/21土～9/9日</p> <p>スロヴァキア共和国の首都、ブラティスラヴァで2年ごとに開催される世界最大規模の絵本原画コンクール2018年展にノミネートされた日本人作家、海外の入賞作家の作品を紹介。奈良、千葉、日光、さいたまを巡回。</p>			 <p>ルノワール《すわるジョルジュ・ジャルパンティエ嬢》</p>  <p>長谷川《靄光像》</p>  <p>モリス《るりはこべ》</p>							
記念館	<p>5期 正二郎と石橋文化センター 4/7土～7/8日</p> <p>文化センターの象徴でもある《みどりのリズム》と《三姿》(ペリカン噴水)の作者、清水多嘉示、山本豊市らとその作品を紹介。</p>			<p>6期 正二郎とヌード 7/14土～11/11日</p> <p>正二郎は自宅玄関にヌードを堂々と飾っていたというエピソードを紹介。洋画におけるヌードの重要性と正二郎の美への情熱をさぐる。</p>			<p>7期 正二郎と坂本繁二郎 11/17土～3/31日</p> <p>正二郎に青木繁作品の収集を勧めた坂本繁二郎を紹介。正二郎の注文に応じて制作された《肉弾三勇士》など坂本の作品を展示。</p>								